

「宍粟郡役所文書」 (その一)

明治二年(一八六九)の版籍奉還を経て、同四年(一八七一)の廃藩置県により、宍粟郡は姫路県に統合され、すぐさま飾磨県と改称されました。明治五年(一八七二)の大区小区制によって、宍粟郡は九小区からなる第十六大区に編成され、同年(一八七六)には兵庫県に統合されています。

明治十一年(一八七八)には、大区小区制は廃止され、地方三新法による郡区町村編成法が制定されました。宍粟郡では翌十二年(一八七九)一月に郡区町村制が施行されて郡役



宍粟郡役所庁舎
(『兵庫県宍粟郡誌』)

所と郡長が置かれ、初代郡長には安原照之氏が就いています。当初の担当事務は、庶務・勸業・学事・社寺兵事・会計・収税の六課が置かれていました。

宍粟郡役所ははじめ山崎町本町に置かれていましたが、明治二十七年(一八九四)に鹿沢字東桜町に移転し、大正十二年(一九二三)三月に郡制が廃止されるまで宍粟郡の行政を担っていました。

明治二十二年(一八八九)には、町村制の施行によって宍粟郡は一町(山崎町)十八村となりました。

翌二十三年(一八九〇)に郡制が公布され、兵庫県では明治二十九年(一八九六)に実施に移されています。これにより郡は、県と町村の中間の自治体として位置付けられ、郡会と郡参事会が設置されて郡行政にあたることとなりました。

神戸市中央区にある兵庫県公館は、明治三十五年(一九〇二)に完成した煉瓦造り三階建の建物で、長く兵庫県庁として親しまれていました。公館内に設けられている県政資料館には、宍粟郡に郡役所が置かれた明治十二年(一八七九)から、郡制が廃止された大正十二年(一九二三)にかけての「宍粟郡役所文書」が保存されています。その内容は、教育・人事・産業・不動産登記・予算など、

宍粟郡の行政に関連する文書が六十七冊の簿冊に綴られています。

どこの郡役所でも郡制の廃止後は、行政機構の改編や市町村の合併による庁舎の解体や移転などで、保存文書が散逸したり、廃棄されることが多く、宍粟郡のように多量の文書がまとまって残されている例は全国的にたいへん珍しいこととされています。

明治中期から後期にかけて、宍粟郡役所で特に関心の高かった事業として林野経営の取組があり、公有林の整理や山林の保護、植林の増殖に努めた様子がうかがえます。宍粟郡の林野経営は、当時兵庫県内でも模範的な事例とされています。また、農業の振興とともに養蚕業も重要な産業として位置付けられていました。

他にも、明治四十三年(一九一〇)、東海・関東・東北地方に甚大な被害を及ぼした「関東大水害」の際には、宍粟郡からも罹災救助の物資が送られたことなどもわかります。

これらの文書は宍粟郡のみならず、明治から大正にかけての郡役所の担った地方自治のあり方や行政の実態を知るうえで、きわめて貴重な歴史資料であるということができます。

【参考資料】

『兵庫県宍粟郡誌』一九三三年、『山崎町史』一九七七年、『郡役所文書の世界』兵庫県公館県政資料館 二〇〇六年ほか

編集後記

8月末に大阪から友人一家が遊びに来ました。事前に「子どもが遊べる場所に連れて行って。」との連絡があり、いろいろと考えた結果、『国道29号縦断ツアー』を計画しました。戸倉峠のそうめん流しに始まり、あげいも、りんご狩り、道の駅巡り、伊和神社、国見の森のモノレール、最後は宍粟牛ハンバーグ。都会の子どもには全てが新鮮だったようで、帰って早々に「ありがとう。子どもがまた行きたいって言うてる。」との嬉しいメールが。地元では当たり前でも、来られる人にはたくさんの宝物があることに改めて気付きました。

皆さんなら、ご友人に宍粟の何をオススメされますか？

宮

広報しろう 10月号

平成28年10月14日発行(139号)

発行/宍粟市 編集/企画総務部秘書広報課 〒671-2593 兵庫県宍粟市山崎町中広瀬 133-6

☎0790-63-3000(代) FAX 0790-63-3061(代) ✉info@city.shiso.lg.jp 🌐http://www.city.shiso.lg.jp